

## 「ゴー、ウエスト！ ヨーロッパ激烈2週間」の巻

### 其の四

ボローニャからパリへ。実はこのフライトでもささやかなる出来事があった。空港のカウンターでチェックインを済ませ、指定されたゲートで待っていたのだが、どう見渡しても、ここボローニャからパリへ行く乗客が少ない。

「何かまちがってんのかあ？」という思いも隠し切れない。しかし、モニターによれば間違い無くここで正しい。

「う～ん……。ま、いっか」

そして搭乗時間が迫り、バスに揺られて飛行機へ。「あれれ～??」私の飛行機はアリタリアの筈だ。でも目の前には別の航空会社の飛行機が待機している。しかも、よく見れば何と「ラウダ」と書かれているじゃないか！

そう、知るヒトぞ知る、ニキ・ラウダの会社である。乗務員に「ば、パリ行くよね？ ね？」と念を押す。どうやら乗客の余りの少なさによる振替輸送らしい。そりゃそうだ、見た目に座席数50程度のこの小型飛行機の機内にさえ、乗客はたった6人。はっきり言って乗務員の数とタメだ。

小型飛行機と書いたが、でもダサイのではなく、本来はVIPが所有していそうな格好良い小型ジェット機だ。さすがに小型、軽量(そりゃそうだ!!)だけあって離陸のアプローチが早い。加速したと思ったら直ぐ浮いてる感じ。

「うほお～、速い、気持ち良いつつ！ さすがラウダ！！」と訳の分らんことを口走りながら窓を眺める。

数十分もすると眼下には険しい山脈が広がる。そうか、これがアルプスなのか！（違ったらゴメン）その壮大な美しさに暫らく窓から目が離せなかった。今だ残雪の頂、流麗な氷河。一瞬表現する言葉を失う。またしても大当たりだ！

あのラウダ航空に乗って、こんな美しい景色を見られるなんて。しかし、更なる喜びが待っていた。このフライトは約2時間程度の短いものだが、それでも食事サービスがあった。しかも、機内食に有りがちな、ちゃちい食器類でなく、しっかりとした食器、特にナイフやフォークが素晴らしかった。それに、布製のナプキンだ！

まあ、そこらのレストランでは何てことない待遇だけど、ここは機内。それを思えば、まるで王様気分ではあるまいか。スチュワーデスにも「苦しゅ～ない、近こう寄れ」と言いたい所だ。さすがラウダ様。ただ、それだけに、この飛行機が燃えないかだけは不安ではあった(分かるヒトには分かる)。

さて、とにかく燃えることも無く、無事シャルル・ド・ゴール空港に到着だ。いよいよPARISである。空港からバスで市内へ直行。いざオペラ・ガルニエ前へ。「うおお、こ、これがパリかあ！」と驚嘆。イギリスでもない、イタリアでもない、オランダでもない、やはりフランスの、しかもパリの風格がそこにはあった。しかも、喋るヒトの言葉が今まで「ヴォンジョルノ」だったのがいきなり「ヴォンジュ〜ル」と変化「GRAZIE」が「MERCI」、「Si」が「Oui」。当然だけど何か不思議な気分。

このオペラ・ガルニエはパリのど真ん中、そこから徒歩数分の所にホテルを取る。パリを散策するには好条件。しかも、土地的なプレミアがついているにも関わらず、割と安い。「らっきーっつ！」またしても最強

運炸裂状態だ。  
荷物を置いて、とにかく街を歩いてみる。

「……。」

正直に言う。はっきり言って東京と何ら変わらない。いや、ちょっと小洒落た、白人の多い東京と言っても過言ではない。デパートが集まる界隈は特に、だ。確かに建物などは均整が取れているし、時折現れるモニュメントや寺院は「いかにも」なヨーロッパの街だが、道路は全てアスファルトで舗装されており、交通量も多い。原付も規制が無いせいか、チャンバーから耳を劈く音を発しているし、運転マナーも決して良いとは言えない。  
つい先刻までディープなヨーロッパの田舎町にいたせいか、パリの余りにも都会的な町並みには少々肩を落とした。

あくる日、朝食も程々に街に繰り出す。とにかく「歩こう作戦」だ。オペラ・ガルニエから適当に進路を取り、どんどん歩く。途中、ジャンヌ・ダルク像があったり、教会から鐘の音が響いたり、朝の爽やかな空気に溶け込んで何と清々しい事だろう。

目指すは少し離れた御存知、凱旋門だ。ウインドー・ショッピングをしながらホントに適当にあるいたので、凱旋門には昼過ぎに到着。それにしてもデカイ。よくもまあ、これだけの構造物を石で作ったものだ……。(実はFRP製なのか?)

TVではよく目にする凱旋門だが、いざ目の当たりにするとかなり感動モノだ。但し、凱旋門のグルリ1周はランナバウト(ヨーロッパ特有のロータリー式交差)になっていて、どうやって円の中心の凱旋門まで行けば良いものか。

この交通量は結構多く、しかも通過速度もそこそこの速いのだ。

仕方がない、タイミングを見計らって道を横断(とは言いつつ、いつもやってることだけど)、凱旋門の真下に到着。下から見上げると更に大きく見える。しかも細かく彫刻も施してあり、これは近寄らねば分からない。

「よお〜っし！」

一息ついてまたランナバウトを横断、シャンゼリゼ大通りを一気にルーブルの辺まで行くことにした。この道はさすがに「大通り」と言うだけあってデカイ。っていうか、歩道がデカイ！  
道にキャパシティーがあるのは非常に小気味良い。途中の売店でチキン・サンドイッチを買う。

「う、美味しいぞー！」

歩きながら食すのはヒトによっては下品と言われるだろうが、緑の下闊歩しながら、というのも決して悪くは無い。

この時の唯一の失敗は、最後の一欠けを口に入れようとした瞬間にパンが崩壊し、中のトマトをアリの餌にしてしまったことだ。(アリってトマト食べたっけ?)

それほど、パリのサンドイッチという奴は大きく、具沢山と言う訳である。これは是非お勧めする。

シャンゼリゼ大通りを左にそれてホテルの方へと軌道修正、木陰から再び街の喧騒に入る。するとどうだ、まるで私の登場を待ち侘びていたかのごとく、そこにはゲーセンがあるではないか！ この時、とある直感があった。

「絶対にMANX TTがある」と。

今や日本国内では見ることも無くなったが、外国ではまだ現役であることを私は知っている。イタリアにも(しかもボローニャにまで)あったしね。

「いざ！」

地下に下りるとそこはゲームだらけ。見渡すと奥のほうにちゃんと・・・「あったぜベイベ！」そこには紛れも無い、愛しのMANX TTが鎮座していた。

それから当然、このゲームに没頭していたことは言うまでも無い。ついでに言うなら、パリ滞在期間中、朝と夜、このゲームで記録を残して帰るといのが日課となっていた。残念ながら総合ランキング1位の座は奪えなかったが時間切れ、まあいい。

そしてふと思うのだ。「もしかして、日本とホントに変わらんなあ・・・」と。

こうして過ぎていくパリ2日間であった。でも、明日はちょっとした約束がある。実は、イギリスから知人がやって来る予定なのだ。少し早起きして、ユーロスターの到着するパリの北駅までお出迎えに行かねばならない。

ちゃんと行けるかなあ・・・。

